

第2回 あかし女性の活躍推進会議（議事要旨）

日 時

平成28年8月7日(日) 13:30～15:30

場 所

あかし男女共同参画センター 会議室1・2

出席者

正木会長、田端副会長、小河委員、崎野委員、高岸委員、堂本委員、成田委員、荻野委員、藤原委員、松本委員、森委員、阪口委員、瀬尾委員、大川委員

議 事（要旨）

1 開会

2 会長あいさつ

- ・ 本日は、第1回会議、6月25日に開催された「女性の活躍推進に向けた勉強会」で出された意見、「配偶者に対する税制・社会保障制度、手当等のあり方」及び、政策提言（素案）についての説明とそれに対する意見交換を行う。

3 議事

- (1) 第1回会議及び勉強会における意見等について
事務局から資料説明（資料1・2）
- (2) 配偶者に対する税制・社会保障制度、手当等のあり方について
事務局から資料説明（資料3）
- (3) 女性の活躍推進に向けた政策提言（素案）について
事務局から資料説明（資料4・5）

委員から出された意見の概要

政策提言（素案）について、意見交換を行った。

1 個別項目について

- ① 子育て環境等の整備

- それぞれの選択に応じた働き方の自由化に伴い、保育の受け入れについても保育時間などの自由度を高め、預けやすいような環境整備が必要となってくるのではないかと。
- 保育士不足を解消するために、保育の資格要件の緩和と、子育て経験者や高齢者等の地域コミュニティによる人材バンクを創設し、保育士、支援員への補助的な業務等について資格条件の緩和と併せて人材バンクを活用してはどうか。
- 人材バンクを、虐待などの社会的養護を必要とする子どもへの支援にも活用できるのではないかと。

〔関連意見〕

- ・ 人材バンクの設置においては、人材を受け入れる側の意識、スーパーバイズ機能を含む体制整備も重要である。
- ・ 潜在保育士の掘り起し及び保育士、学童保育指導員の待遇改善も必要。
- ・ 放課後児童支援員等の登録制度の事例（神戸市社会福祉協議会）もある。

② 地域活動における役割分担意識の変革

- 自治会の運営は、長は男性が務めていることが多いが、実際の運営については既に女性が活躍しているため、提案内容を見直すべきではないかと。

③ 企業における取り組みを進めるための方策

- 企業の取組促進については、仕組みの構築や活用する側のハードルも高いため、モデル事例を情報提供する方法がよいのではないかと。
- フレックスタイムやテレワークの導入等による働き方の多様化の推進が必要ではないかと。
- 企業間（特に中小企業間）で優良事例等の情報の共有・交換ができるネットワークの構築が必要ではないかと。

〔関連意見〕

- ・ 中小企業における人材不足は深刻であり、競争力の向上と人材確保のためにも、女性の活躍推進の取り組みは企業として必要不可欠なのではないかと。
- ・ 業種により状況が異なり、統一的なインセンティブ付与は難しい。
- ・ インセンティブ付与よりも、女性の活躍を推進する企業に対する表彰から始めたほうがよいのではないかと。
- ・ 中小企業へは、他の事業所との交流やテレワークの導入などの取り組みに対する補助金の交付が望ましい。
- ・ 企業内に女性活躍推進担当者を設置し、担当者向けの勉強会を開催するなど、地道な取り組みが必要なのではないかと。
- ・ 労働力不足を解消するため、経営者の意識改革を行い、企業全体が付加価値

をつけ競争力を養う時代である。

- ・ 事業所内で、地域活動への参画の推進や、相互扶助できる意識改革と支援体制の構築が望ましい。
- ・ 官民連携のもと、WEB などを利用し、ハローワークでは提供していない女性活躍に関する先進事例等を紹介してはどうか。
- ・ 休業制度の整備だけでなく、短時間勤務、時差勤務など、多様な働き方を認める方が、企業、雇用者の両者にとって負担感が少なく、効果的ではないか。
- ・ 子ども同伴での勤務、企業内保育所の共有など中小企業でも可能な内容とすべき。
- ・ 介護休暇の拡充も必要。
- ・ 政府は国税を世帯単位の課税にしようとしている。企業もそれに合わせて配偶者手当等のあり方を検討していかなければならない。

2 素案のまとめ方

- 「家庭」、「地域と企業」という場面ごとでの構成ではなく、理想とする姿や望ましい取り組みの方向性といった構成を検討してはどうか。「明石市役所における先導的な取り組みの推進」の項目は、このまま残しておいてもよいのではないか。
- 男女を区分した内容となっているが、ほとんどが男女共通の問題を取り上げたものである。女性を強調しすぎることで、やや使い古された表現が多いようにも思われる。昨今の状況は、むしろ男女の区別をしない方向でもあり、それらについても考慮してはどうか。

4 閉会

- ・ 事務局から、第3回会議は子どもの同伴を可能とする提案があり、承認された。